

監事コメント

「時は流れても」

前熊本県代表幹事

前熊本小児歯科懇話会 会長 **入江英仁**



時は流れる、万物の上に平等に。30年の月日はそれぞれにとって様々な光と影を落としたことだろう。小児歯科の30年前は“むし歯の洪水”が先輩の先生方の努力により漸くせき止められ始めた時代だ。そんな時代により地域に根差した小児歯科を作り上げようと地方会組織が誕生した。この30年の間に小児歯科は学問として、臨床医療として、そしてまた子供たちの成長と生活を支援する領域として大きく進歩を遂げてきた。

これもひとえに長きに亘る関係者の方々の情熱と努力のおかげと言える。しかし、ここで30年の過去を振り返るのもよいが、まだまだ子供たちを取り巻く環境には次々と新しい問題が顕在化してきていることを考えると我々の歩みを止めていることはできない。社会がより複雑化し、価値観が多様化する中、子供たちを取り巻く環境も簡単な図式によって説明、解決することが難しくなってきた。親から子への貧困の連鎖が教育や健康面で取り上げられることが多くなってきているが、これも単に金銭的な問題だけではなく価値観や健康観を変化させるだけの余裕が与えられ自覚が生み出される社会構造の創出が必要とされる。我々は子供を通して社会を見るとともに社会背景を見ながら子供たちに接してきた。これからも子供たちに寄り添いながら広い視野を持ちつつ活動を続けて未来を拓いてゆきたい。